

日本の文化再発見

畳のある部屋

近年、生活スタイルが洋式化したことでフローリングの床が主流になり、和室のない家も増えています。とはいえ和室のゆとりとした雰囲気は今でも多くの人に愛され、住居の一室には和室が欲しいと思う人も少なくありません。そんな和室の魅力となる畳には様々な性能があり、その利点の多さが改めて見直されています。今回は、日本固有の文化である畳について特集していきます。

畳の歴史は長く、古事記にも記述があります。実際に今の畳に近い構造のものが現れたのは平安時代、貴族や権力者が、ベッドのような寝具として使用していました。その後、鎌倉時代から室町時代にかけて書院造が生まれ、畳を床一面に敷き詰める現在の和室の様式に変化し

ました。その頃はまだ畳は位の高い者の使用物でしたが、茶室の登場により畳の需要は高まり、江戸時代後期には庶民の間にも広まりました。

日本で作られた畳は、日本の高温多湿に合う特性を持っています。畳の芯になる畳床の内部は、空気をよく含んでいます。これが室内の空気を吸い込み湿気を吸収し、逆に室内が乾燥してくると、蓄えた水分を外に放出する、吸湿・放湿効果を発揮しています。またこの畳床に含まれる空気は熱を遮断する断熱効果も生み、暑いときは外の熱を防ぎ、寒いときは温度を外に逃がしません。その他にも音を吸収する防音効果や、畳の表面に使われるイグサの香りが生むリラックス効果など、畳には多様な利点があります。

日本文化に触れる、作る

今回は、五反野商店街の野村畳店さんと連携し、畳の作り方を学ぶ講座を2つ募集します。募集開始は6/26(火)から！



五反野の畳屋さんとお仕事体験「ミニ畳作り」

畳屋さんの仕事を見学し実際に畳作りを体験します。

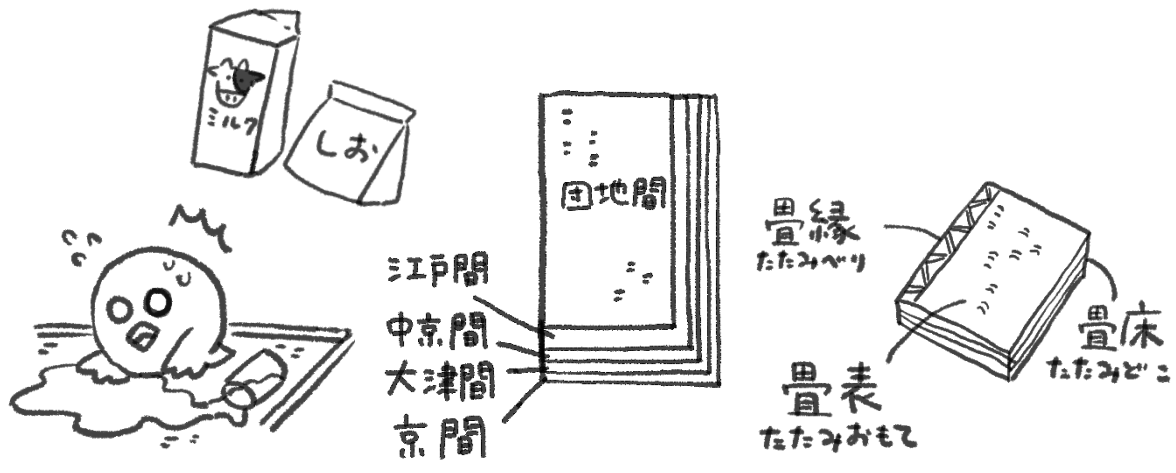
8/4 (土)
午後1時～2時
対象：4歳～小学生
(小学2年生以下は保護者同伴)
定員：5人
料金：500円



夏の工作教室「畳コースターを作ろう」

糸と針を使わずに、畳のコースターを作ります。

7/14 (土)
午後1時～1時30分/午後1時30分～2時/
午後2時～2時30分/午後2時30分～3時/
午後3時～3時30分/午後3時30分～4時
対象：4歳～小学生
(小学2年生以下は保護者同伴)
定員：各5人 料金：無料



畳！マメ知識

畳のつくり
畳は、表面に見えるイグサ等を編みこんだ畳表と、その下にある畳の芯となる畳床、端を縫った畳縁で出来ています。

様々なサイズ
畳の大きさは、関東に多い江戸間(五八間)・岐阜・名古屋等に多い中京間(三六間)・岡山や広島で見られる大津間(六一間)・京都等の関西地方で見られる京間など、地方によって異なるサイズと、地域に関係なく統一して作られた団地間があります。どのサイズも縦と横は2対1の比率になっています。

汚した時は
誤って畳を汚した時は、その汚れによって対処が変わります。例えば、ソースやジュースをこぼした時は、水分を吸い取り、塩を振りかけ、ブラシなどを目に沿ってかけたら掃除機をかけてください。インク等は牛乳で濡らせてから固く絞った雑巾でふき取る。油性ペンはマニキュアの除光液を掛けてからふき取る等々、その場に合った対処で汚れを取りましょう。

